

～「痛み少なく」「きれいな写真」で「見落としにくい」そんな装置に生まれ変わります～

資料2 射水市民病院のマンモグラフィ装置を更新します！

現在、日本人女性の11人に1人が乳がんになるといわれている中、早期発見には乳房用線診断装置(マンモグラフィ)による検査が非常に有効です。

今回更新する装置は、患者さんへの負担軽減と、県西部では初となる人工知能の搭載により、がんの特徴を示す所見を自動検出できる「乳がん検出支援システム」を採用していることから、より質の高い診断が可能となります。

1 導入機器

- (1) 名称 デジタル式乳房用線診断装置(富士フイルム社製)
- (2) 稼働開始 平成31年1月21日(月)

2 機器の特徴

- (1) 乳房を優しく包み込む圧迫板のため、従来あった圧迫時の痛みが大幅に軽減されます。
- (2) 従来よりも高精細・高画質な画像が撮影でき、腫瘍をより鮮明に描写することができます。
また、1mm間隔での薄い画像約40枚を一度に撮影することが可能な機能(トモシンセシス機能)を備えており、4月から人間ドックのオプション検査としてご利用いただけるようになります。(被ばく線量は従来装置と変わりません。)
- (3) 画像の読影をサポートする「乳がん検出支援システム」の採用により、がんの所見を自動検出し、これまで発見が難しかった小さな乳がんを発見することができます。

3 専門スタッフの配置

乳腺専門医、検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師(女性2名)

4 報道機関への公開

- (1) 日程 平成31年1月21日(月) 午後3時30分から
- (2) 場所 射水市民病院 1階 放射線科

射水市では、乳がんの早期発見を目指し、節目及び重点年齢での受診料無料化や30歳以上の方への受診券の送付など、受診率の向上に努めています。

(職場等で検診を受ける機会のない方を対象としています。)

節目年齢…30歳から65歳までの5歳ごとの年齢

重点年齢…43歳、48歳